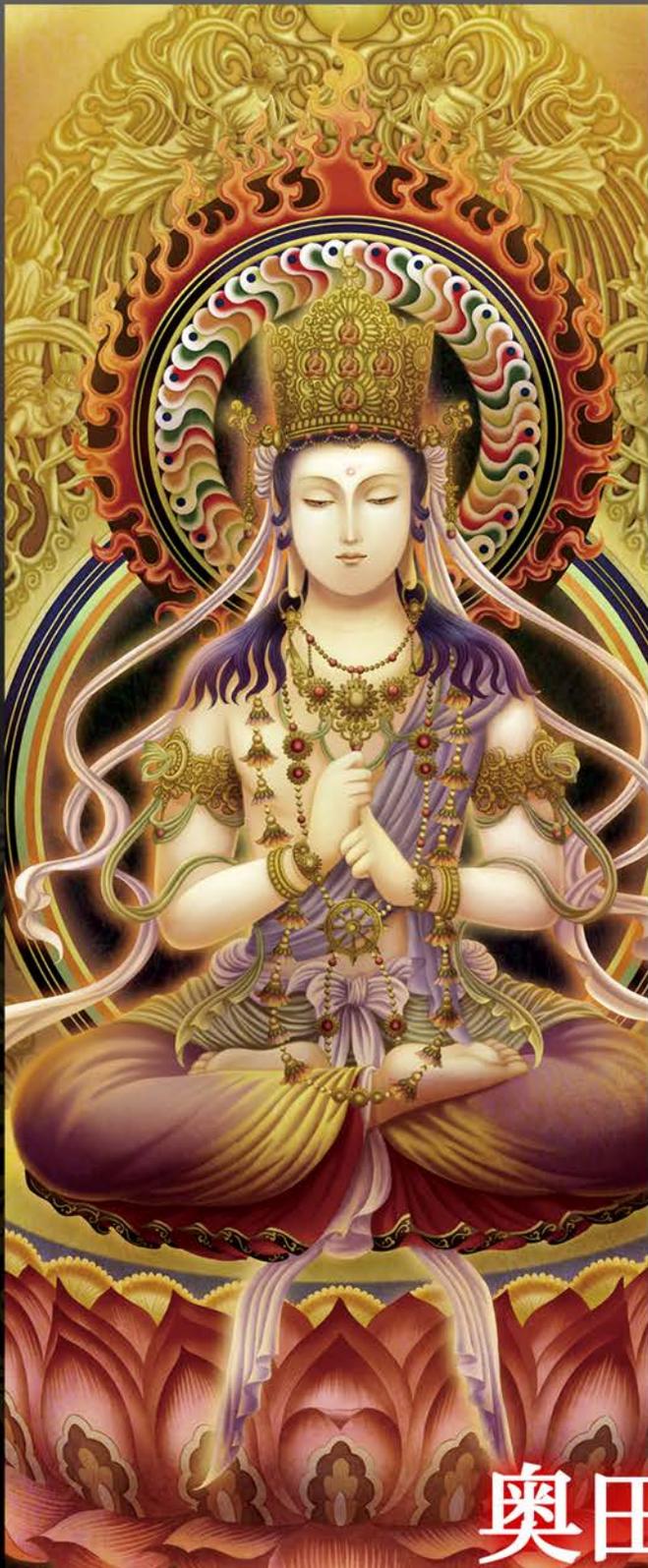


仏さまと龍神さま

作画と鑑賞に使える資料集



奥田みき

仏さまと龍神さまを描く

こんにちは、奥田みきです。

「仏さまと龍神様～作画と鑑賞に使える資料集～」を開いていただきまして、ありがとうございます。

今回この冊子では、「仏さま」と「龍神様」のビジュアルについてご説明させていただきました。

絵を描く方には作画のご参考に、絵を描かない方でも、鑑賞の手引きに使っていただければ嬉しいです。

それでは最後までお付き合いください。



目次

ご挨拶	1
目次	2
仏さまのご紹介	3～7
観音菩薩について	8～13
観音菩薩の造形について	14～19
持物について	20
龍とは？	21～26
龍の造形について	27～35
あとがき	36～37





仙 子 来

最初は仏さまのご紹介

「仏画」は、仏さまの教えを視覚的に理解するために誕生したもので、元々は「写仏」が基本です。

現在でもそれは変わらないのですが、時代の流れと共により自由に仏画に親しむ方も増えてきました。

ただせっかく「仏さま」を描くのですから、「自由」とは言っても「何でもあり」ではなく

「基本的な仏さまの知識」は知った上で描く方が、より仏さまとの繋がりを感じ、ご利益も得ることが出来ると思います。

今回の冊子では最も有名な仏さまとも言える
「**観音菩薩**」を例に、外見の特徴を図説と共
にご紹介させていただきます。

図説の前に、まずは最初に簡単に「仏さまの
世界」についてご説明させていただきます。



仏さまの世界

仏像が最初に登場したのは、仏教の開祖「釈迦如来」の入滅から数百年後のことです。

最初は釈迦如来像だけでしたが、その後仏教が発展して様々な仏像が登場します。

特に密教の世界では数多くの仏さまが存在します。

仏像は大きく分けて

「如来」「菩薩」「明王」「天部」

に分けられます。図で表すと次の様になります。



これからご紹介する「観音菩薩」は「菩薩」グループの中にも含まれる「観音」グループです。

グループ菩薩



菩薩とは？

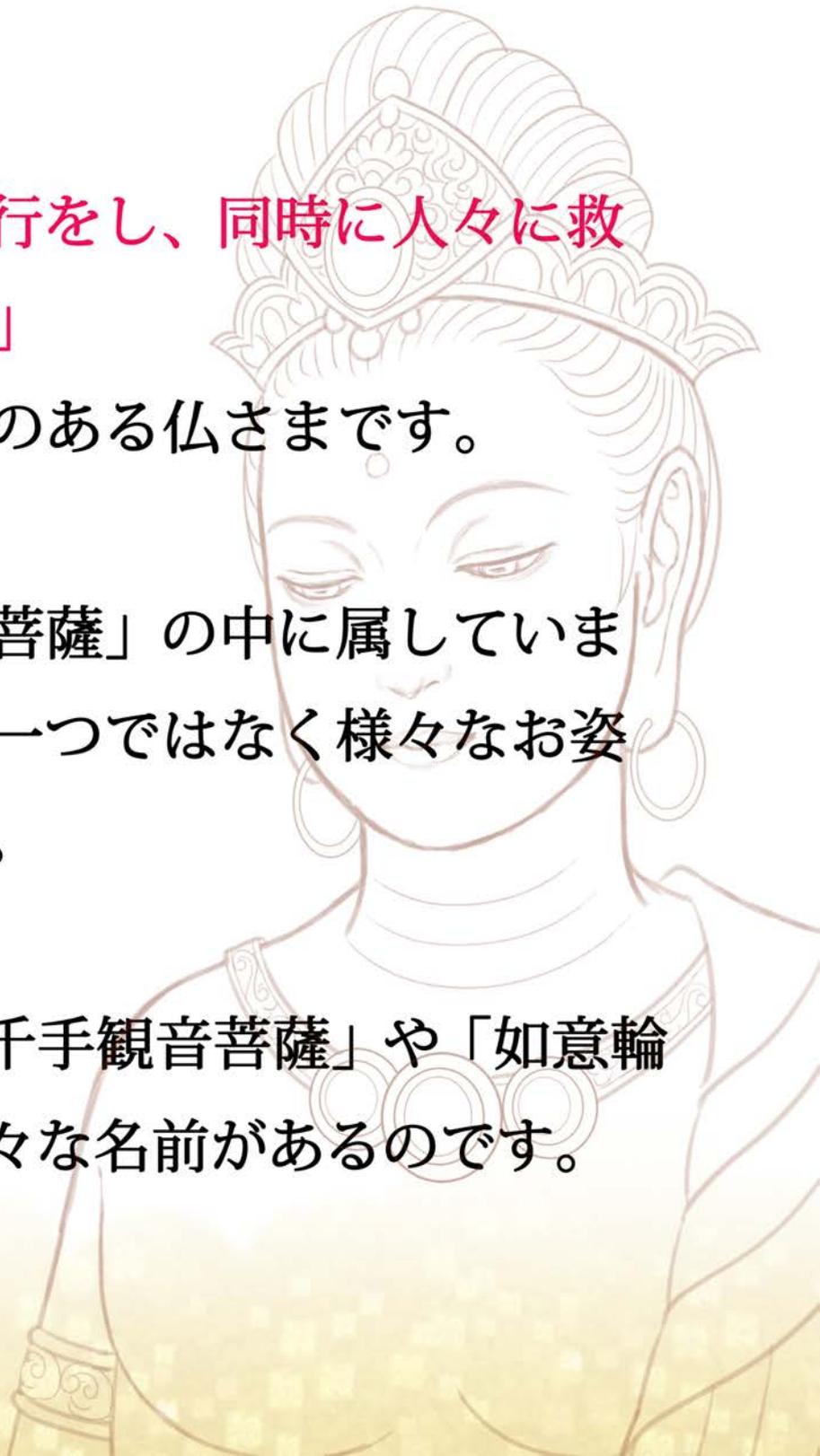
前ページの図のように、菩薩は「仏さま」の4つの階層の内、上から番二目の階層になります。

「悟りを求めて修行をし、同時に人々に救済をもたらす存在」

として昔から人気のある仏さまです。

観音菩薩はこの「菩薩」の中に属していますが、そのお姿は一つではなく様々なお姿に「変化」します。

なので観音様は「千手観音菩薩」や「如意輪観音菩薩」など色々な名前があるのです。



▼観音様は男性？ 女性？

観音菩薩は梵名を

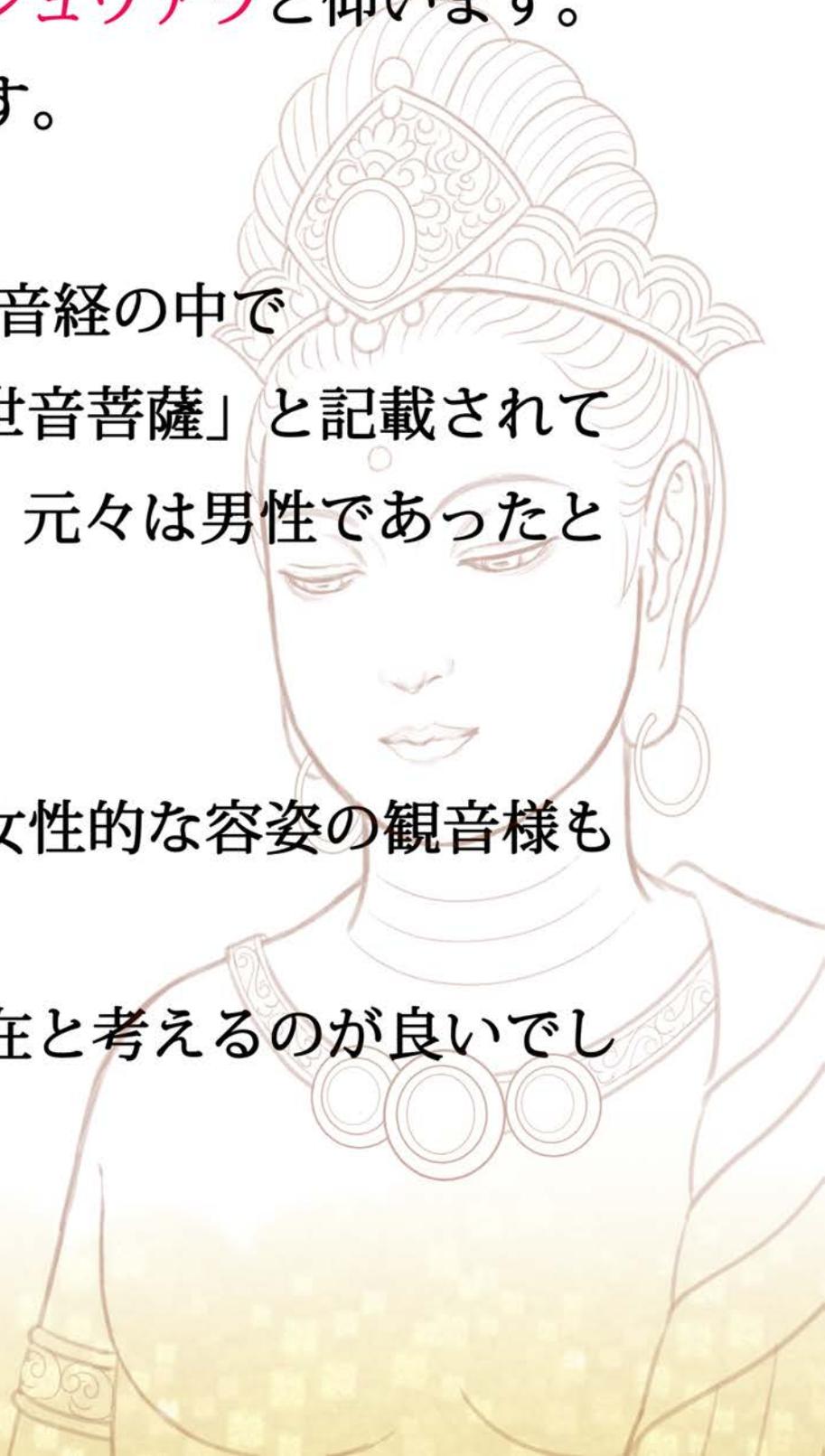
アヴァローキテーシュヴァラと仰います。

これは男性名称です。

法華経の有名な観音経の中で

「勇猛なる丈、観世音菩薩」と記載されていることなどから、元々は男性であったと考えられます。

「慈母観音」など女性的な容姿の観音様も多いですが性別を超越した存在と考えるのが良いでしょう。



千手観音

聖観音

如意輪観音

十一面観音



観音菩薩

次のページでは代表的な観音菩薩を
ご紹介します。

(画像は「日本の密教カード」奥田みき作画より)



十一面観音菩薩(じゅういちめんかんのんぼさつ)

頭上に沢山のお顔を乗せている観音様です。

全方位に衆生を見守り、救済して下さる観音様です。



如意輪観観音菩薩(によりんかんのんぼさつ)

如意宝珠と法輪で願いを叶えてくれる観音様です。右足を立てて坐り、顔に手を当て人々を救済する方法を考えているポーズです。



准胝観音菩薩(じゅんていかんのんぼさつ)

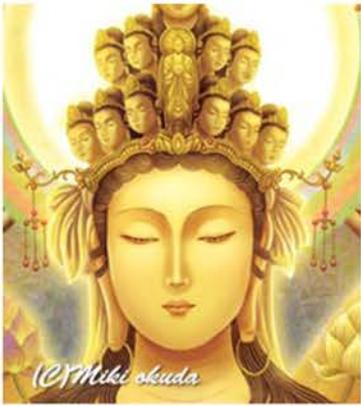
「無数の仏さまを生み出す母なる存在」です。

手観音に似ていますが、手は18本で千手観音より少なく頭上に十一面が乗っていません。



聖観音菩薩（しょうかんのん）

数多くの「変化観音」の基本となる観音様です変化観音以外は全て聖観音（正観音）とお呼びします。



千手観音菩薩（せんじゅかんのんぼさつ）

観音の王と呼ばれる、千の手を持つ観音様です。

千の眼であらゆる人々を見守り、千の手で救うとされています。



馬頭観音菩薩（ばとうかんのんぼさつ）

観音さまの中で、唯一忿怒顔をしていらっしゃいます。馬をはじめとした動物を見守りますが弱っている人の味方でもあります。



不空罽 (ふくうけんじゃくかんのん ぼさつ)

「強力な罽索で、人々を確実に救済する」観音様です。人々をあますことなく（不空）救済して下さる観音様です。



白衣観音菩薩 (びやくえかんのん ぼさつ)

良く目する白い布を頭から被っている「白衣観音」は三十三観音の中の一つです。

次のページからは「聖観音」を例に「観音菩薩」のお姿の特徴を図説を含めてご説明しますね。

悟りを目指し修行するもの

観音菩薩全身

① 光背

仏さまの智慧や功德の象徴。仏さまの体から放たれる光を表現したものです。

出家前の釈迦がモデルになっており優雅なお姿で表現される。

② 臂釧 (ひせん)

二の腕に付ける飾り

③ 宝冠帯

宝冠を結んで下に垂らしている布

⑤ 持物 (じもつ)

蓮や水瓶などの仏さまの持ち物

⑥ 条帛 (じょうはく)

左肩から右下にかけられるショール

④ 腕釧 (わんせん)

ブレスレット

⑦ 天衣

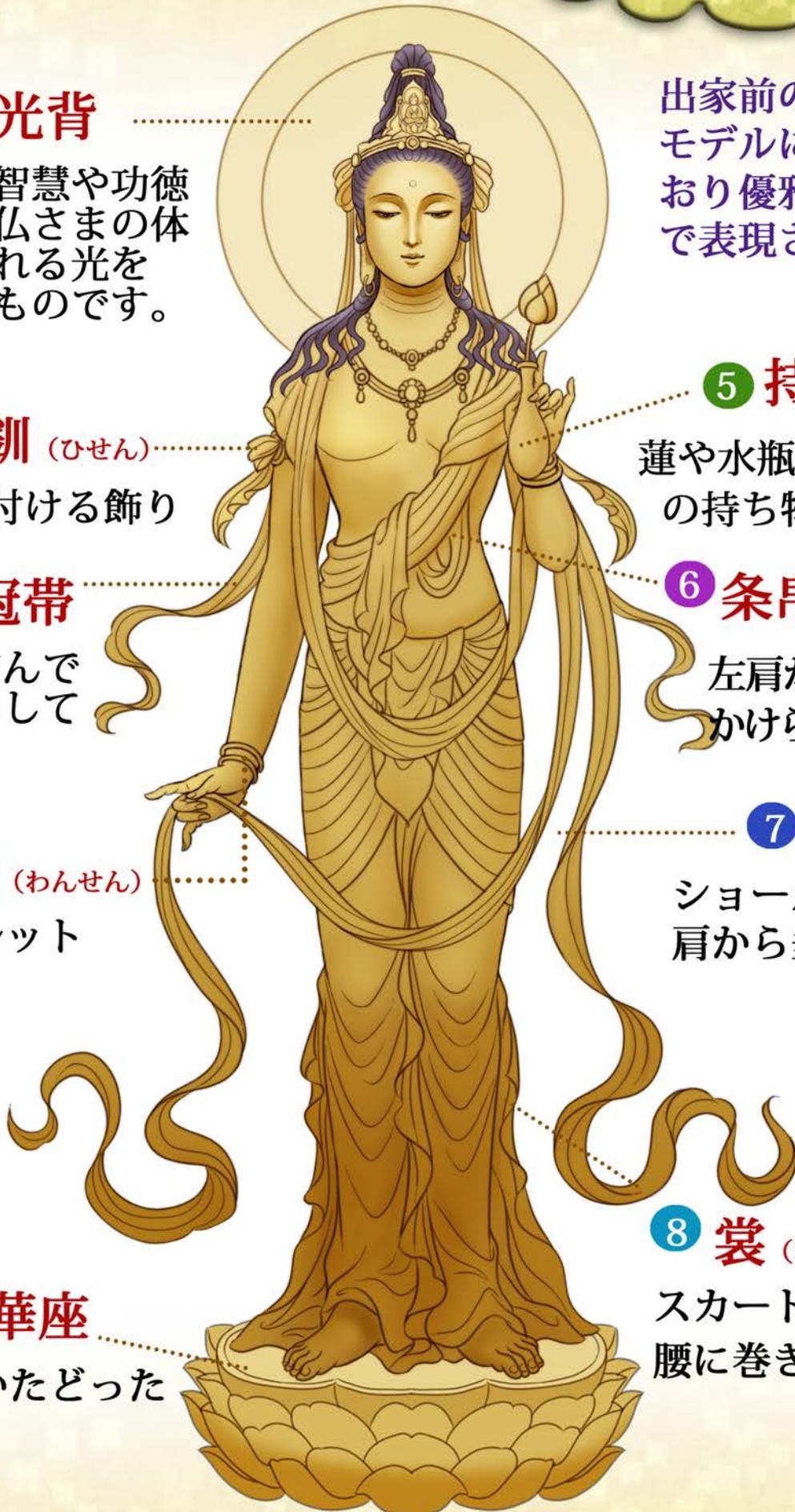
ショールのように肩から垂らす布

⑨ 蓮華座

蓮華をかたどった台座

⑧ 裳 (も) / 裙 (くん)

スカートの様に腰に巻き付ける布



観音菩薩尊顔

1 宝髻 (ほうけい)

高く結い上げた長い髪

2 化仏

頭上に付属する小型の如来像

3 白毫 (びやくごう)

額にある渦巻き状の白い毛。光を放つ

4 耳璫 (じとう)

イヤリング

5 三道

首の三本のしわ
悟りに至るまでの
修行の三段階を示す

6 宝冠

天冠とも呼ばれる
宝石類のついた冠

7 耳朶 (じだ)

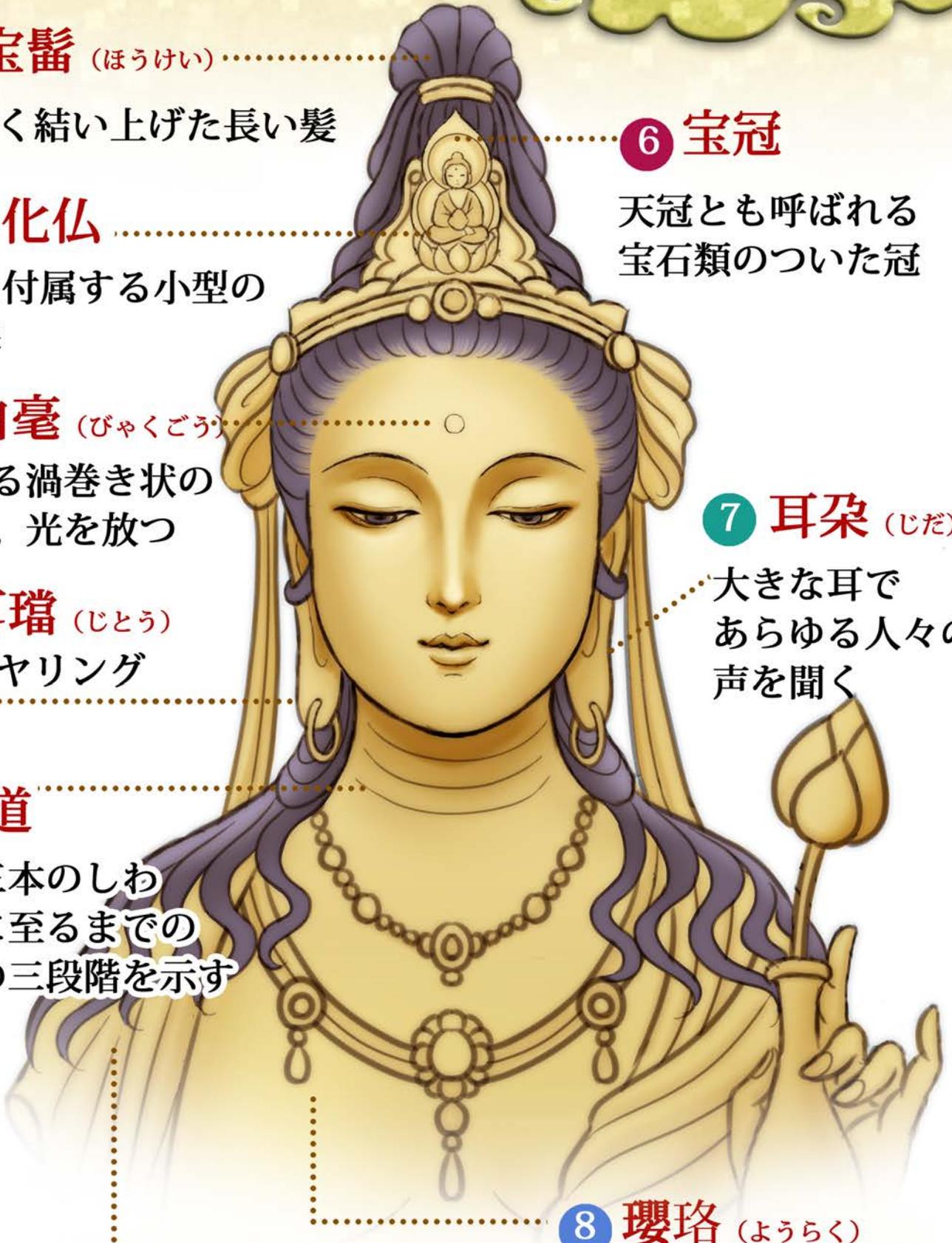
大きな耳で
あらゆる人々の
声を聞く

8 瓔珞 (ようらく)

飾りの付いたネックレス

垂髪

肩に垂れ下がった長い髪



三十二相

仏さまにはその超人的な能力を表すために

【三十二相八十種好】と呼ばれる外見の特徴が詳細に決められています。(32の特徴と、より細かな80の特徴です)

その中から代表的なものをご紹介します。

▼仏さまの髪の色は？

青真珠のような紺瑠璃色です。

▼仏さまの体は何色？

身体が金色に輝いています。

三十二相



▼冠の仏さまはなに？

観音菩薩の冠についているのは阿弥陀如来です。観音菩薩は阿弥陀如来の慈悲の現れなのでいつも冠に阿弥陀如来を乗せておられるのです。



▼仏さまの眉

仏さまの眉毛は細く長く三日月型で美しい瑠璃色です。

▼仏さまの目の色は？

真青眼相（しんしょうげんそう）青蓮華のような紺青色です。

目について

如来や菩薩は「半眼」と呼ばれる目をしています。開けても、閉じてもない目で、心を落ち着け集中している状態です。



眉毛の描き方で印象が
だいぶ変わります



顔の違い

仏さまのお顔を描く時に、普通の人間の顔との違いを意識すると、より「仏さまらしい」お顔に仕上げることができます。



- 鼻・細い鼻筋をしています。
- 眉毛・緩やかなカーブを描いています。
(普通の人間とは違い、眉山などは描きません)
- 口・小さめな口で、微笑を浮かべています。
- 目・半眼ですっとした切れのある目です。
- 輪郭・凹凸のないゆるやかな丸めの顔です。

持物

仏さまは役割に応じて手に様々な持ち物を持っています。これらを**持物**と呼びます。沢山の持物がありますが、ここでは幾つかご紹介します。



▲**未敷蓮華** 蓮の花です。観音菩薩の多くが持っています。蕾の状態は修行中の菩薩を表します。



◀ 如意宝珠

願いを叶えてくれる不思議な珠

▼ 金剛杵

仏法を守る武器。先端が五つに割れた「五鈷杵」、三つの「三鈷杵」、一つの「独鈷杵」などがある。





龍神

龍神さまについて

ここからは「龍神様」のコーナーになります。私が運営するブログの「龍とは？」の記事は、サイトの中で一番の人気コンテンツです。

それだけ龍に関心がある方が多いのだと思いますが、この冊子ではブログの方ではあまり扱っていない「龍の造形」にフォーカスを当ててみました。

絵を描く方や鑑賞の手引きにも使えるようにしましたので、是非ご参考になさってください。

その前に、ブログの「龍とは？」の記事の中で、「龍の容姿」に関わる記事を簡単にまとめて見ました。さらに詳しく知りたい方は、ブログの「龍とは？」をご覧くださいね。



「龍とは？」

龍は東洋では蛇のような長い胴体を持つ霊獣であり、**霊力を持った守護神**です。霊力で空を自在に飛び回り、特に水神として信仰されて来ました。

龍は中国から日本に伝来し、元々日本にあった蛇神信仰や密教と融合して、日本独自「龍神」になりました。

一言で「龍の種類」と言っても様々な解釈がありますがここでは下記のように分類してみました。

▼四神思想の龍

四神思想とは天の四方を聖獣が守護しているという考方です。**東を青龍が守護します。**

▼五行思想と五神龍

万物は5つの要素（火・水・木・金・土）からなるとされている説です。

五行思想に基づいて五龍神をお祀りした神社が東京：田無にあります。

▼龍絵による分類

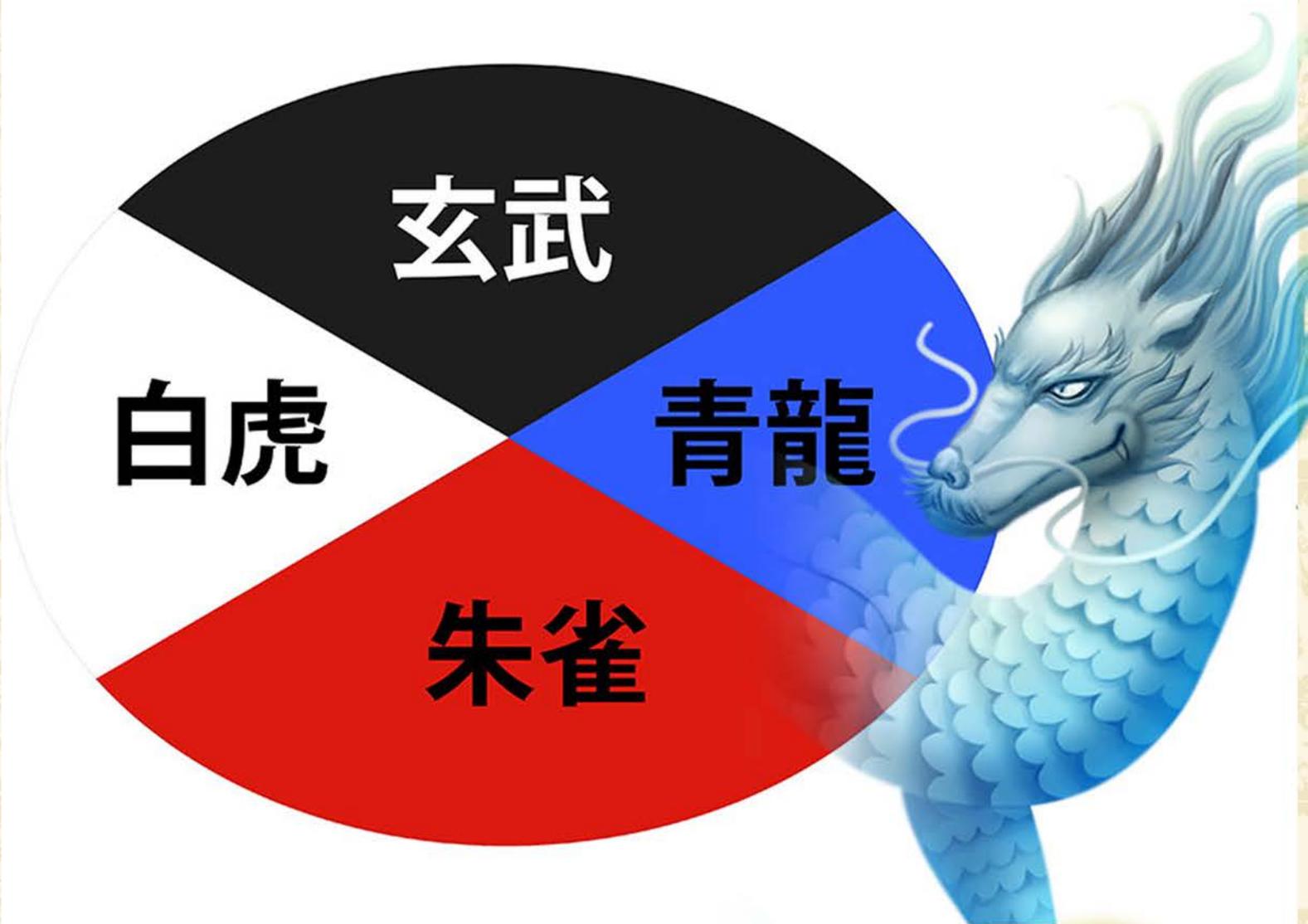
龍の絵は水墨画や日本画としても古くから描かれて来ました。

昇り龍や飛龍などがあります。

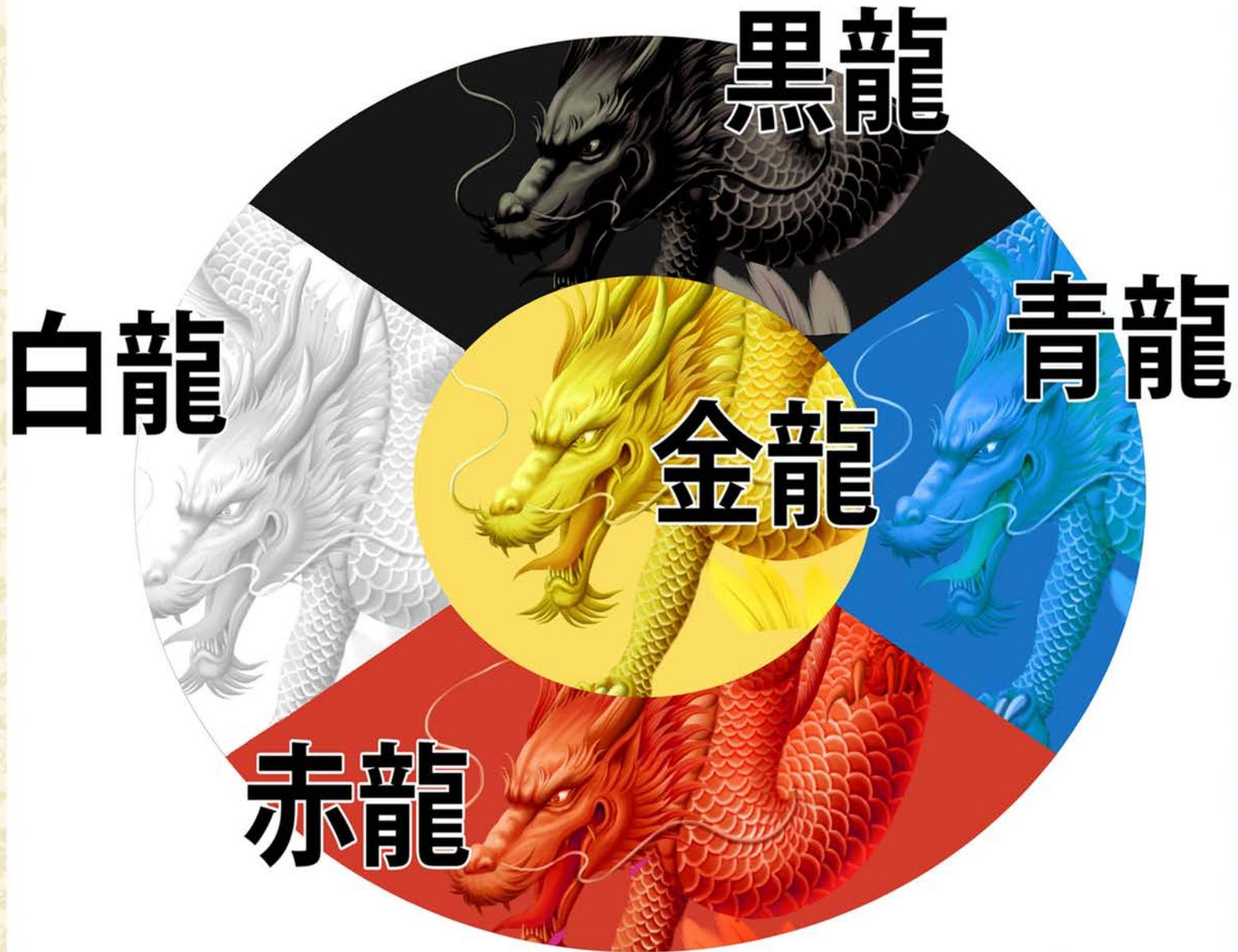


四神思想と五行思想を図説しました。

▼四神思想



▼五行思想と五神龍



龍の顔①



龍の顔の特徴は「龍の九似」のページでも記載していますが、古典的な龍の顔はどこかおじいさんのように見える絵が多いですね。近年では作家さんが個人的にアレンジして描くことも多く、モンスターのようないくつ顔から、優しい顔までバリエーション豊かに描かれるようになりました。

龍の顔②



.....

ここでは龍の顔のバリエーションを掲載します。きりっとした顔から優しい顔まで色々な龍がいます



龍の九似①

龍は九つの動物に似ていると言われていています。これを「龍の九似」と呼びます。龍を描く人は古来よりこの九似を元に描いてきました。次のページでは龍の特徴を図説でもご説明していますので、合わせてご覧ください。

龍の九似

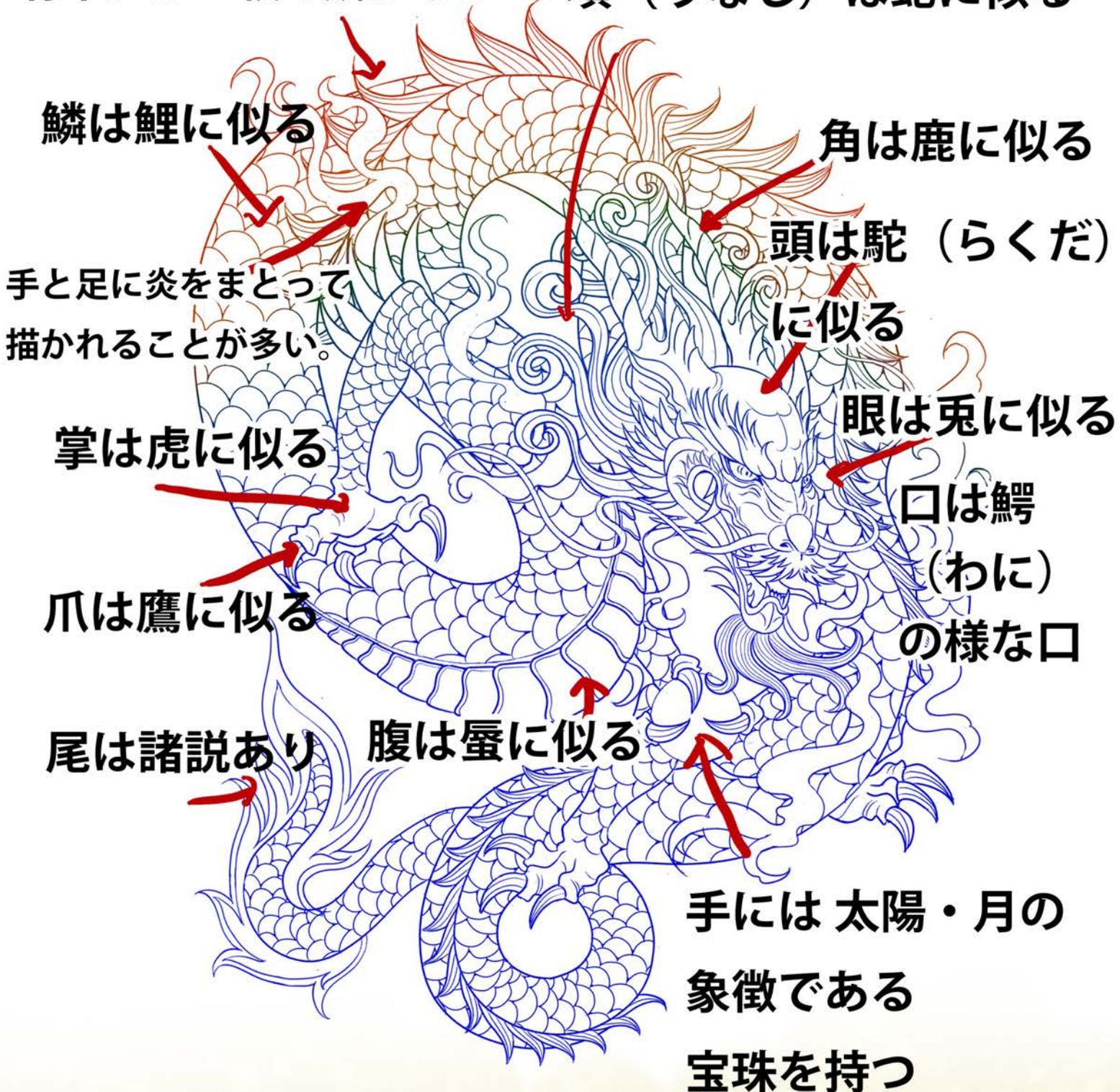
- ①項（うなじ）は蛇に似る
- ②頭は駝（らくだ）に似る
- ③角は鹿に似る
- ④眼は兔に似る
- ⑤耳は牛に似る
- ⑥腹は蜃に似る
- ⑦鱗は鯉に似る
- ⑧爪は鷹に似る
- ⑨掌は虎に似る

その他の特徴

- ①口は鰐（わに）の様な口
- ②飛龍の翼はコウモリの形
- ③手には 太陽・月の象徴である宝珠を持つ
- ④背中には81枚の鱗
- ⑤喉の下に「逆鱗」と呼ばれる逆向きの鱗
- ⑥尾については諸説あり
- ⑦手と足に炎をまとう

龍の九似②

背中には81枚の鱗がある 項（うなじ）は蛇に似る



龍の姿

東洋の龍は細長いフォルム
をしています。



頭のこぶ（博山）の
能力で翼がなくても
飛ぶことが出来ると
言われています。

頭の山上の起伏
博山



龍の手



龍の掌は虎に似て、爪は鷹に似ていると言われています。掌はゴツゴツとしていて、爪は鋭いです。前足は宝珠を掴むことが多く、緊張感のある感じで描くのがコツです。



龍の足

龍の足は、四つ足の動物に似ていますが全体的にゴツゴツしています。

前足は大抵力が入っている感じに描かれ後ろ足は踏ん張っている場合と、風に流れる様に描かれる場合があります。

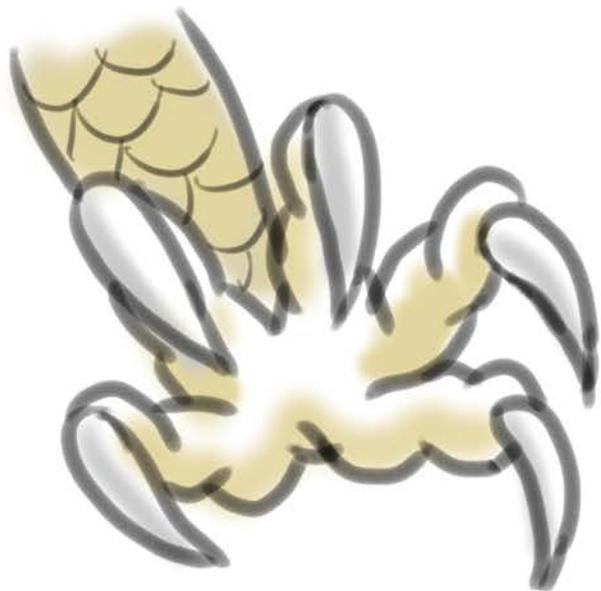


前足



後ろ足

龍の爪の数



五本爪



四本爪

龍の爪は色々ありますが何本が正解でしょうか？ かつて中国では「五本爪の龍」は皇帝にのみ許されたものでした。四爪も天子一族だけのものです。

日本では龍が伝わって来た時に龍と天皇を関連付けることをしませんでした。そのこともあり日本では龍は三本爪描かれてきました。近年では絵を描く人が独自に解釈で自由に描くことが多いです。

龍の尾の形

龍の尾の描き方には何種類かありますが
下記の4つが多いです。



先の丸まっている形

丸まった先にとげのよ
うなものがある。龍の
ご利益が八方に広がる



尻尾が房のような
形になっている



先がすっとした形

仏さまと龍神様
描き方入門

いかがでしたか？

絵を描く方にも、描かない方にも
何かのお役に立てれば嬉しいです。

ご拝読ありがとうございました。

奥田みき



奥田みき/著

「仏さまと龍神さま

作画と鑑賞に使える資料集」

2020年5月20 初稿発行

この電子書籍に含まれる記事、画像の一切の権利は奥田みきに帰属し、日本の著作権や国際条約で保護されています。

著者の許可なく、この電子書籍の一部、または全部を複製、転載、その他二次利用することを禁じます。